

ディレクター・ステイトメント

5歳の私は保育園でまったく昼寝をせず、友達を起こして騒ぐ問題児だった。それを見かねた先生が私を別室に移し、紙と鉛筆を与えた。夢中で絵を描く姿を見て、次に先生は学会会の背景画を託した。年に一度の晴れ舞台で大役を任された私はヒーロー気分を味わった。しかし、小学校に入学してしばらくすると母は学校に呼び出され、担任教諭にこう言われる。「お子さんはおかしいので、病院で診てもらってください」。この経験から、障害は環境が作り出すものだとは私は考えている。環境によってヒーローや、障害は生まれる。本展「なんでそんなん」は障害や日常のささやかな眼差しに優しい変化をもたらすものだ。障害を取り巻く社会の環境を変える第一歩として、まず私たちの眼差しをアップデートしたい。

滝沢達史（たきざわたつし） <https://www.takizawatatsushi.com> <https://www.hoharu.com>
1972年生まれ。多摩美術大学卒業後、10年間特別支援学校の美術教諭として勤務。以後、美術家として日本各地のアートプロジェクトに参加。地域課題から教育・福祉など多岐にわたる活動を展開。近年では、不登校・ひきこもりとの協働「表現の森」（アーツ前橋）や、自身で立ち上げた児童福祉施設「ホハル」の代表を務めるなど、教育と福祉を面白おかしく模索中。

なんでそんなんプロジェクト <https://nandesonnan.com>

「生活介護事業所 ぬかつくところ」が2020年度より初めたプロジェクト。人の行為から生まれる「よくわからないもの」を断絶し、排除するのではなく、または、「無理にわかり合おうとするのではなく」、想像力を駆使して「分からなさを楽しむこと」。「なんでそんなん」な行為や作品に注目するだけでなく、「なんでそんなん」を見つける「発見者」の育成をすることで生きやすい社会を目指します。多様な見方を考える「オンラインセミナー事業」などを実施。

ぬかつくところ <http://nuca.jp>

「ぬかつくところ」は生活のケアを柱として、アートを活用した自分らしい生活をおくることのできる生活介護事業所です。正面から捉えるとひるんでしまうことも、ちょっと角度を変えてみれば、だれも気付かなかった価値が生まれたりする。そういった価値や個々の魅力が「ぬか漬」のように時間をかけてゆっくりと発酵し、社会へと広がって行くことを願って名付けました。

関連イベント 第一回なんでそんなん大賞

2020年度で一番のなんでそんなんを決める「なんでそんなん大賞」を会期中に実施。

応募期間 **2020年11月1日～2021年2月6日**
発表 **2021年2月14日（日）**
投稿先 <https://nandesonnan.com/post/>
審査員 柳沢秀行（大原美術館学芸統括）、滝沢達史（本展ディレクター／美術家）、ほか



お問合せ / INFORMATION

なんでそんなんエキスポ実行委員会
TEL | 086-482-0002（ぬかつくところ内）
Email | contact@nandesonnan.com



写真＝タイトル：おそなえ、行為者：小池佑弥、発見者：ぬかスタッフ

2021年2月6日（土）～2月21日（日）

会場＝HYM hostel（岡山県玉野市宇野1-7-3）

厚生労働省 2020年度 障害者芸術文化活動普及支援事業 中国・四国ブロック連携展覧会
展覧会ディレクター | 滝沢達史 企画協力 | ぬかつくところ / 株式会社ぬか

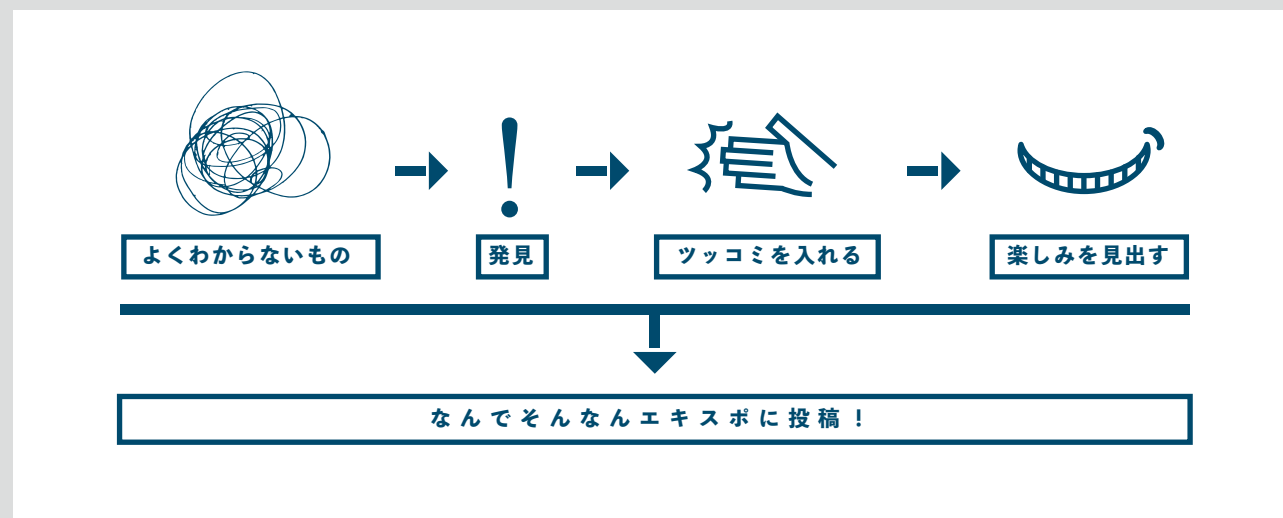
理解しがたい
けど気になる
そんなものたちの博覧会
あなたが見つけた
「なんでそんなん」を
教えてください



なんでそんなんエキスポ

about
NANDESONNAN EXPO

「なんでそんなん」は、お笑いでいうところの「ツッコミ」の言葉です。他者の突飛とも思える行動をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに受け入れ「ツッコミ」を入れる。ツッコミによって、多様な人の営みをおおらかに受け入れ「楽しむ」能力を高めます。想像を超える現実を前にユーモアを持ってツッコミを入れることのできる「なんでそんなんの発見者」。そんな発見者たちの暖かい眼差しによって見出された「なんでそんなん」が集まる博覧会です。本展では中国・四国ブロックの福祉の現場や一般の方から「なんでそんなん」な行為を集め、博覧会会場にて展示します。オンラインによる一般公募も行い、寄せられた「なんでそんなん」な事例によって会場は日々変化する予定です。あなたが見つけた「なんでそんなん」をご応募ください。



事例 / CASE

ハルカベ

作者 | 石橋明花

発見者 | めかスタッフ

雑誌やマネキンをテープでぐるぐる巻きにすることが好きな石橋さん。壁にも少しずつガムテープを貼っていき、自分の持ち物を少しずつ入れていく。カベが次第に膨れ上がっていき、生き物のように色や形が変化していく。最初は10本ほどのガムテープを使用していたが、最近は1回につき1本くらいを使用してコンスタントに貼っている。1度は自分で全てを撤去しており、写真のものは2代目。なぜ壁にガムテープを貼っているのかは不明だ。



強盗と人質

作者 | 小尻桃次郎

発見者 | 小山田匡範

それは突然やってくる。それは突然始まる「ポリスアクションムービー」。それが始まると彼の持つダンボールの端切れはワルサー PPK に瞬時に変化する。その場は「強盗と人質」が立てこもる「地方銀行の待合室」にシーンチェンジするのだ。そして偶然そこにいる者は、好む好まざる関係なく配役され演技を強要されるのだ。それは彼の輝く大切なひとときなのだ。

傾斜角マイケルなみ

行為者 | アキマサ

投稿者 | 大野雅孝（父）

アキマサが動くキッカケを掴むときは、私たちの 1.2.3 の掛け声に合わせて、全体重をかけて身体を預けてくる。その預け方は、月日を経るごとに角度を増しており「傾斜角マイケルなみ」と私は勝手に命名している。しかも、体重は重い。なんでこんなにも傾く必要があるのかは全くの謎である。親の筋トレにはなるかもしれないが、腰を痛めるリスクを背負っている。



3

会期 2021年2月6日（土）～2月21日（日）

時間 平日 11:00～17:00 / 土・日 11:00～19:00

会場 HYM hostel（岡山県玉野市宇野 1-7-3 東山ビル）

応募期間 2020年11月1日～2021年2月21日

投稿先 <https://nandesonnann.com/post/> _____ QRコード



収集対象 全ての人を対象にします（年齢・性別・国籍・障害の有無などは問いません）